

## 平成28年度事業報告

昨年(平成27年)の4月14日に起こった熊本地震は記憶に新しい出来事である。協会としてこの地震に関連して行われた支援活動は、平成28年度事業の中でも特筆されるもので、予算確定後であったため、急ぎよ予備費を活用して会員を現地に派遣するという事業を行った。

その後も、従来の「震災支援対策委員会」から「災害支援対策委員会」に名称を変更した委員会は、首都圏直下型地震への対策などを検討し、今年(平成28年)の3月26日に首都圏の県協会とシンポジウムを開催し、現状の確認や連携のあり方を話し合った。

この他、会員の協力を得て実施したものとしては、社会問題対策部が中心となって開催している「ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い」やホームページの見直しを進め、求人情報を一般公開にしたり、レイアウトの変更を進めたりした「広報プロジェクト」、「医療と福祉110番」などがある。この中で、「医療と福祉110番」は、マスコミの力を広報に活用した成果か、今回は過去9年間で最高となる125件という相談件数であった。

教育部が担当している研修では、昨年に引き続き新人研修の受講希望者が多数あり、担当講師の協力を得て、定員以上の人数で開講した。

一方、毎年監査役員から指摘を受けている会費未納者への対策については、いろいろな案を検討しているものの実現できず、年度末に109名の未納者が出ている。会費が協会の活動を維持する財源であるので、今後も会員への周知を図り、会費未納者を出さない対策を講じていきたい。

平成28年度も都内の医療関連各職種が集う医療ネットワーク会議や、東京都医師会が、東京都より委託された東京都在宅療養推進基盤整備事業の多職種連携連絡会への参加など、各種団体や行政と連携・協働などの活動も行った。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるように努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. 講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。
9. 広く都民に対する公益活動として公開講座を開催しました。
11. マイナンバーの管理等の関係から金庫を購入したり、プリンターを更新したり、協会事務所の機能強化を図った。

## I. 管理運営報告

- 1) 公益法人の要件整備に努めた。
  1. 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
  2. 協会事務所の事務局体制を週4日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
  3. 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた
  
- 2) 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
  1. 広く都民に対しての公開講座を開催した。
  2. 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
  3. 西東京市医療福祉相談会を開催した。
  4. 葛飾区医療福祉相談会を開催した。
  5. 江戸川区神経難病検診を実施した。
  6. 清瀬市医療福祉相談会を開催した。
  7. 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに「医療福祉の相談コーナー」を設置し、相談会を開催した。
  
- 3) 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
  
- 4) 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
  1. 東京都難病相談・支援センター主催の「難病医療相談会」に参加協力した。
  
- 5) ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
  
- 6) 広報活動
  1. ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。求人情報の公開、研修案内、災害支援コーナーの表示、「病院・施設機能説明チャート」掲載等を行った。
  2. 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
  
- 7) 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
  1. 地域巡回医療福祉相談事業
  2. 電話相談事業（医療と福祉110番）
  3. 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
  4. グループスーパービジョン（4講座）
  
- 8) 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。
  
- 9) 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話会を通じブロッ

クに情報を提供した。

- 10) 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- 11) 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

12) 会員の異動状況（平成28年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	80	8	4	92
退会者数	74	31	3	108
現会員数	734	111	13	858

\*2017年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/8	世話人会	4/ 8	世話人会
		4/27	勉強会「診療報酬改定」 講師：伊藤正一氏
5/26	世話人会	5/15	巡回相談会（八王子福祉まつり）
6/24	勉強会・懇親会 「精神科医療の医療連携について」 講師 山口さおり氏（薫風会山田病院）	6/10	ブロック交流会
		7/14	世話人会
		8/3	世話人会
		9/30	世話人会
9/12	世話人会	10/15	西多摩相談会&市民講座
		10/27	勉強会「身寄りなく、社会背景困難な方への社会資源を知ろう」
11/8	7ブロックとの合同情報交換会	11/9	多摩支所勉強会
11/13	巡回相談会（東大和市福祉まつり）	11/29	世話人会忘年会
12/7	世話人会		
1/21	新年交流会	1/13	世話人会
		1/18	世話人会
2/9	世話人会		
3/15	勉強会「相談援助職のバーンアウト予防について」 講師 酒井佳永氏（跡見学園女子大学）	3/3	勉強会「来年度、あなたの相談室をどうしますか？」 講師：伊藤三恵氏
3/21	世話人会（世話人引き継ぎ）		
世話人・運営委員	◎高橋奈央（小平中央リハビリテーション病院）	◎高橋潤子（北原リハビリテーション病院）	
	○佐藤妙子（武蔵村山病院）	◎武井純一（老健ぐらんぱぐらんま）	
	▲真々田美穂（東大和南街クリニック）	○金丸恵子（老健エンジェルコート）	
	平川直子（東京白十字病院）	▲浅古美絵（東海大学八王子病院）	
	栞高知代（西東京中央総合病院）	▲宮岡彩実（日の出ヶ丘病院）	
	尾花直子（多摩済生病院）	作本美千子（立川相互病院）	
	中村江里（田無病院）	立川真理子（青梅三慶病院）	
	末松友賀（前田病院 H29年2月転ブロック）	西村裕子（櫻井病院）	
		富士川泰裕（康明会病院）	
		室井健太郎（上川病院）	

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

第3ブロック		第4ブロック		
4/13	世話人会	4/26	世話人会 ブロック通信5月号発送	
5/20	世話人会	5/22	巡回相談会 みなと健康まつり(芝公園)参加	
6/17	世話人会			
7/1	情報交換会	6/28	世話人会 ブロック通信7月号発送	
7/12	世話人会			
8/8	世話人会	8/3	ブロック会 勉強会 「東京逡信病院緩和ケア病棟見学説明会」	
		8/3	交流・情報交換会	
		8/18	世話人会	
9/5	世話人会			
10/3	世話人会	10/20	世話人会 ブロック通信10月号発送	
10/18	研修会 原爆被爆をして			
11/8	巡回相談会(「いたばし健康まつり2016」へ2日間参加)	11/26	ブロック会 勉強会 「NPO マギーズ見学説明会」	
11/13	世話人会			
12/4	豊島ふくし健康まつり 相談会	12/13	ブロック会 勉強会 「東京リハビリテーション病院見学説明会」	
12/10	世話人会			
1/11	世話人会			
2/24	懇親会			
3/6	世話人会	3/15	新旧世話人引き継ぎ会	
世話人・運営委員	◎高山 佳代子(東京北医療センター)	◎谷口由子(虎の門病院)		
	○小畑 由佳(大泉生協病院)	○玉川ひとみ(東京女子医科大学病院)		
	▲常陸奈々恵(滝野川はくちょう地域包括支援センター)	徳田匡彦(コーラルクリニック)		
	▲中里 香(大塚クリニック)	森岡江美(国際医療福祉大学三田病院)		
	小柳 佳奈子(帝京大学医学部附属病院)	▲高橋昌也(三井記念病院)		
	的早 克真(東友会)	▲高橋香織(東京医科大学病院)		
	岩上 香菜子(東京都健康長寿医療センター)	▲鳥入さゆり(東京医科歯科大病院)		
	中辻康博(豊島区在宅医療相談窓口)	▲堀川真知子(東京逡信病院)		
	瀬尾真奈美(王子生協病院)			
	濱野麻祐子(イムス板橋リハビリテーション病院)			

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第5ブロック	第6ブロック
--------	--------

4/14	世話人会	5/10	世話人会議 年間企画の打ち合わせ
6/28	世話人会	7/12	世話人会議 情報交換会事前打ち合わせ
		7/19	情報交換会 東京共済病院
8/5	情報交換会		
8/5	世話人会		
9/28	世話人会	9/21	世話人会 巡回相談・勉強会打ち合わせ
9/30	勉強会「怒りの理解と対応」 講師：がん研有明病院 臨床心理士 宮崎加奈子先生		
11/12	巡回相談会（江戸川区介護フェア）	11/1	世話人会 巡回相談事前打ち合わせ
11/22	世話人会	11/13	巡回相談会（OTAフェスタ）
11/25	施設見学会「小規模多機能施設」 小規模多機能（きらら船堀・英・ケアヴィレッジ東京）		
1/19	世話人会	1/10	世話人会 勉強会打ち合わせ
1/27	情報交換会	1/18	勉強会 「怒りの理解と対応」講師：臨床心理士 宮崎加奈子先生
3/16	世話人会	3/1	勉強会「居住福祉とソーシャルワーク」講師：つくろいファンド代表理事 稲葉剛先生
3/21	勉強会「認知症について～MSWがしておきたいこと～」 講師：賛育会病院神経内科雨宮志門先生	3/14	世話人引き継ぎ会 東京共済病院
世話人・運営委員	◎上田美佐江（がん研有明川病院） ○笹本千壽子（東京東病院） ○加藤大介（東京東病院） ▲森 尚子（賛育会病院） ▲金子 充（さくらライフ錦糸クリニック） 須藤純子（京葉病院） 沓澤郁子（水野記念病院）	◎矢島朋子（大田病院） △篠原明美（立正佼成会付属佼成病院） ○守屋景子（大森赤十字病院） 相馬初穂（関東中央病院） 津波秀子（関東中央病院） 井坂恭輔（森山リハビリテーションクリニック） 樋口直美（東京共済病院） 赤木瑞枝（古畑病院）	

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

第7ブロック	
4/6	世話人会
5/6	世話人会
6/10	名刺交換会
7/7	世話人会
7/14	1・7ブロック合同世話人会
8/12	世話人会
8/25	施設見学会 多摩総合医療センター
9/20	世話人会
11/8	1・7ブロック合同情報交換会
11/25	巡回相談会打ち合わせ
12/3	巡回相談会（調布市福祉まつり）
1/20	新年会
2/18	施設見学会 井之頭病院
3/17	世話人会
世話人・運営委員	◎▲大串悠太郎(三鷹中央リハケアセンター) ○佃 恵理(老健ふれあいの里) 近藤久美子(府中恵仁会病院) 芹田啓子(調布東山病院) 深澤佳奈(多摩川病院) 堀尾彩乃(都立多摩総合医療センター) 山下舞子(366リハビリテーション病院)

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

## II. 各事業報告

### 【定款第1号事業】

#### 1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

##### 1. 地域巡回医療福祉相談

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施した。

日程		開催場所	相談件数	特別企画
1	11/13日	東大和市役所	9	東大和福祉祭り (アンケート124名)
2	5/15(日)	八王子市富士森公園	15	八王子市福祉まつり (アンケート51名)
3	11/8(火)、 11/9(水)	板橋区立グリーンホール	23	いたばし健康まつり (アンケート58名)
4	5/22(日)	港区芝公園	5	みなと健康まつり (アンケート29名)
5	11/12土)	タワーホール船堀	26	江戸川区介護フェア
6	11/13日)	平和の森公園緑のエリア	7	OTAふれあいフェスタ (アンケート57名)
7	12/3(土)	調布市駅前広場(調布社協)	10	調布市福祉まつり (アンケート54名)

##### 2. 電話相談(医療と福祉110番)

平成29年2月7日～2月12日までの6日間、常設の電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	44	33	0	77
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	21	41	0	62
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	8	3	0	11
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	13	20	0	33
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	16	34	0	50
看護や療養・生活指導をめぐる問題	13	11	0	24
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	4	2	0	6
その他医療福祉に関する相談	84	25	0	109
合 計	203	168	0	371



### 3. 公開講座【自主事業】

平成28年11月5日(土)、三鷹産業プラザにて「居心地のいい居場所づくり～認知症カフェより学ぶ～ 医療と地域認知症へのとりくみ」のテーマで開催した。

前半は、東京都健康長寿医療センターのソーシャルワーカー齋藤久美子さんより、認知症疾患医療センターの役割や認知症をとりまく地域の状況、本人のこころなどについてお話頂いた。後半は、NPO Dカフェネット代表の竹内弘道さんより、母親の介護経験からご自宅で認知症カフェを立ち上げ、地域全体に展開してきた経過と今後の展望を示して頂き、地域づくりをともに考える場となった。

### 4. 難病検診への参加協力【受託事業】

#### (1) 東京都難病相談・支援センターについて

同センターは、難病患者さんの日常生活における相談を受け支援を行い、また地域交流や活動を行う拠点として、患者さんの療養を支えるために設けられている。

#### (2) 難病無料医療相談会について

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け東京都難病相談・支援センターが実施している。平成28年度においても、例年通り8回の開催となった。相談申し込みは、完全予約制となっており、定員の上限は各回30名で、難病相談・支援センターが受け付けている。相談会の内容は、専門医が一件20分を目安に個別に来所者(患者・家族)から医療に関わらず生活面等、様々な相談に応じている。

#### (3) ソーシャルワーカーの役割について

当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWを派遣し、専門医と面接前の事前面談を担当している。平成28年度においてもMSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。(場所：東京都難病・相談支援センター／渋谷区広尾5-7-1)

#### ① 日時：平成28年6月19日(日) 11:00～16:30

対象疾患：ハンチントン病

協力SW：井上孝義(信愛病院) 計1名

来談者：6名

#### ② 日時：平成28年7月10日(日) 11:00～16:30

対象疾患：網膜色素変性・難治性視神経症

協力SW：山崎まどか(JCHO東京新宿メディカルセンター)、井上孝義(信愛病院)  
計2名

来談者：10名

#### ③ 日時：平成28年9月25日(日) 11:00～16:30

対象疾患：膠原病

協力SW：山我香子(玉川病院)、藤井かおる(京葉病院)、井上孝義(信愛病院)

計3名  
来談者 : 40名

④ 日 時 : 平成28年10月23日 (日) 11:00~16:30

対象疾患 : 血液系

協力SW : 山崎まどか (JCHO東京新宿ケアセンター)、井上孝義 (信愛病院) 計2名

来談者 : 25名

⑤ 日 時 : 平成28年11月13日 (日) 11:00~16:30

対象疾患 : 消化器系 (肝臓)

協力SW : 富士川泰裕 (康明会病院)、井上孝義 (信愛病院) 計2名

来談者 : 11名

⑥ 日 時 : 平成28年12月4日 (日) 11:00~16:30

対象疾患 : リウマチ

協力SW : 平田和広 (上板橋病院)、井上孝義 (信愛病院) 計2名

来談者 : 13名

⑦ 日 時 : 平成29年1月22日 (日) 11:00~16:30

対象疾患 : 神経系 (パーキンソン病、多発性硬化症等)

協力SW : 増田真由美 (自宅会員)、坂原薫・井上孝義 (信愛病院) 計3名

来談者 : 39名

⑧ 日 時 : 平成29年3月27日 (日) 11:00~16:30

対象疾患 : 神経系(筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症等)

協力SW : 荒井有希子 (順天堂医院)、野村洋平 (東部地域病院)、井上孝義 (信愛病院)  
計3名

来談者 : 27名

#### 5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、清瀬市の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

#### 6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

平成28年6月26日(日)、江戸川区医師会会館にて第37回江戸川区医療福祉相談会、10月23日(日)、葛西健康サポートセンターにて第38回江戸川区医療福祉相談会を、医師会、江戸川区の後援を受け、多職種と共に開催した。これらの活動を通じて、MSWと行政、医療機関との連携が強化され、地域福祉活動に寄与している。(相談件数は順に11件、12件)

## 7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

平成28年11月20日(日)、葛飾ボランティアまつり、平成29年3月4日(土)、葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと相談会活動を行なった。相談会を通じて、地域との関係性は深まりつつある。(相談件数は順に27件、26件)

## 8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

平成28年10月1日(土)向台町地域包括支援センターエリア内の民生委員を対象に「病院・施設選び」をテーマに相談会を開催した。平成29年2月25日(土)市内の全地域包括支援センター代表者と「介護と医療の地域連携を考えよう～診療報酬改定に伴う影響について～」と題し、意見交換、相談会を開催した。共に今後も定期的な開催の要望が出る程、好評な反応であった。(相談件数は順に10件、15件)

## 9. 清瀬市医療福祉相談会【自主事業】

9月4日(日)、清瀬市梅園にある社会福祉法人信愛報恩会の信愛病院にて開催された「しんあいバザー」内で保健・医療・福祉サービスの情報提供や個別相談を行った。(相談件数6件)

## 10. 江戸川区神経難病検診【自主事業】

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、10月4日(日)江戸川区医師会館にて開催され、MSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

## 11. 震災支援活動【自主事業】

大震災発生から6年を経過した現在も、被災された方々において健康問題や生活の場の喪失、孤立化など医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。よって、今後も震災支援の継続が必要と考える。

一方で近年、全国各地において震災や台風、噴火など様々な自然災害が頻発している。平成28年4月には熊本県にて大地震が発生した。

都内近郊においても、南海トラフや首都直下型地震、風水害、大事故など、今後大きな災害が起こり得ることを常に意識していかなければならない。

被災者への支援、都内の災害支援対策の確立を目指し、平成28年度は以下における活動を行ってきた。

### (1) 支援活動の運営

委員会の名称を「震災支援対策委員会」から「災害支援対策委員会」に名称変更した。定期的に活動の打ち合わせを重ね、今年度は計11回開催している。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、平成23年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

### (2) 被災者への支援

平成29年2月7日(火)～14日(火)にかけて、当協会で行っている電話相談「医

療と福祉110番」と連動し、東京都民のみならず、都内に避難生活を送られている方々も対象に、電話相談を行った。昨年度に引き続き、東京都の都内避難者支援課を通じて、都内に避難された方々に広報を行っている。

支援活動の一環として「広域避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」等、避難者交流会への参加、広域支援ネットワーク等に参加し、各関係機関や団体と連携を図った。

「広域避難者の総合的支援の継続」についての直接要望を、東京都に提出した。

「子どもの甲状腺検診」(生活協同組合パルシステム東京主催)へのMSW派遣を受託、受診者へのアフターフォローの相談窓口に会員を派遣した。

4月14日に発災した熊本大地震に関して、他のMSW協会と連携を図りながら、災害支援対策委員会、並びに緊急災害支援拡大会議を実施し、支援策を検討してきた。

協会ホームページにおける情報交換掲示板の設置、災害支援研修会(5月31日)の実施、支援金の受け付け、熊本県益城町総合体育館避難所における相談支援として、要請に応じて会員の現地派遣を行った。

### (3) 防災・減災対策

首都圏直下型震災への準備や他地域の震災支援が的確に行えるようガイドライン・規約の作成を協議してきた。

災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。

東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参加。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。

「大規模災害対策講演会」を3月26日に開催。前半は関東のMSW協会同士による意見交換会、後半は弁護士の津久井進先生を講師として招き、講演会とディスカッションを行った。

### (4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報活動

災害支援ニュース「つたえる」を定期的に発行することにより、会員や外部に向けて、災害支援の継続的な必要性のアピールを行った。

また、別冊「つたえる」第2号を出版し、協会会員に配布している。

現地訪問と各県のMSW協会との交流・情報交換として、平成28年4月16日(土)～17日(日)に宮城県医療ソーシャルワーカー協会との交流会と石巻市・女川町のフィールドワークを行った。現地に出向くことに関して、被災の状況を深く理解し、MSW同士の交流・連携を深め、現状を外部に伝えるための重要な機会となっている。

9月27日(火)、災害研修「熊本地震支援報告会」を実施した。

教育・啓蒙活動として、第35回日本医療社会事業学会(新潟県)にて、当協会の活動について発表した。また、日本QOL研究会夏期セミナー(福島県いわき市)においても、当協会の活動について報告している。

以上、各関係機関や他県のMSW協会と交流・連携を深めながら、協会全体の協力体制を強化に務めた。

## 【定款第2号事業】

### 2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

#### 1. 講座【自主事業】

平成28年度は昨年度に引き続き、「地域包括ケアシステムについて考える」を年間テーマとして計3回の夜間講座を開催した。

第1回は、平成28年7月22日に新宿の家庭クラブ会館ホールにおいて、「地域包括ケアシステムについて考える：在宅MSWの取り組みから」と題して、さくらクリニックの鈴木道先生に現場の目から見て理解した地域包括ケアシステムと、その現状や実践についてご講演いただいた。

受講者は59名で、「病院のMSWと在宅MSWが大切にしていくことは同じだということが印象に残りました」、「長く関わる中で、家族の生活、チームのメンバー、病状などが共に変化していくこと、そこに丁寧に寄り添うことが求められ、それは病院SWに不足しつつあることのように思います。ぜひSW同士でソーシャルワークを繋いでいきたい」、等の感想が寄せられた。

第2回は、平成28年11月30日に三鷹市の三鷹産業プラザにおいて、「在宅医療介護連携支援室立ち上げから1年～相談からみえてきたもの～」と題して、武蔵野市医師会在宅医療介護連携支援室ソーシャルワーカーの石井いほり先生に地域特性や地域から求められていること、相談支援から見えてきたものや役割についてご講演いただいた。

受講者は36名で、「今回の講師の先生の謙虚なお人柄、地域の関係機関、クライアント、ご家族などに丁寧に対応されていることが分かり、地域の中でソーシャルワーカーがいる意味を再確認できました」、「意識を改めて頑張ろうという気持ちになりました。自分の所属する区ではこの事業がどう進んでいるのか気になります。すごく興味深い事業推進をされていると思いました」、等の感想があり、地域で取り組まれている新たな事業について学ぶ機会を得られた。

第3回は、平成29年2月3日に新宿の家庭クラブ会館ホールにおいて、「東京都の地域包括ケアシステムの取り組みと今後の展望」と題して、東京都福祉保健局医療政策部地域医療担当課長の久村信昌先生にご講演いただいた。この第3回は2年間の集大成として、地域医療構想や在宅医療・介護連携推進事業における東京都の政策に加え、病院医療から生活支援を含めた在宅療養への転換を図ることで、病院から生活の場へ戻り、住み慣れた地域で暮らしていくことを実現するためにMSWに期待されること等、具体的にご講演をいただいた。

受講者は32名で、「都の政策の方向性がわかって大変勉強になりました。参加した方々の質問内容もとても「そうそう」と思うことが多く、皆の意見を代表していたと思いました」、等の感想が聞かれた。

この夜間講座は、公益社団法人日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士申請のためのポイント対象の講座である。回によっては参加者が少数であり、案内方法や参加者を増やす方法を検討しなければならない。

#### 2. 研修会 ※講師 敬称略

##### (1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

平成28年度も通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の

2つのコースを設定した。会場は、通年コース・集中コース共に家庭クラブ会館を中心に、数回飯田橋レインボービルを利用して開催した。

受講生募集方法に関して郵送での申込み形式をとったが、申込み者が非常に多かった。

今年度は通年コースが40名定員のところ申込み多数のため42名と定員越えて開講した。集中コースは23名で開講した。いずれも欠席、遅刻が目立つ受講生が数名おり、来年度は欠席、遅刻がないように受講生に促していく。今年度の通年コースの修了証は受講生全体の9割、皆勤賞は3割弱の方に発行した。集中コースは修了証は受講生全体の7割、皆勤賞は5割の方に発行した。

なお、例年同様、前年度の受講生に協力員として参加を依頼した。

また、今年度も受講生に講義内容の振り返りとして毎回「気づきと感想」を提出してもらい、今後の研修内容の検討材料として活用し、来年度の研修に反映させていきたい。

【講師】 武内 昶篤 (東京都医療社会事業協会副会長)

樋口 昌彦 (至誠会第二病院)

大沼 扶美江 (東京都立広尾病院)

平岡 久仁子 (帝京平成大学)

山下 律子 (山下社労士行政書士合同事務所)

柴田 礼子 (順天堂大学医学部附属練馬病院)

小嶋 章吾 (国際医療福祉大学)

小松 美智子 (武蔵野大学)

## (2) グループスーパービジョン【受託事業】

### ①Aグループ

毎月第3または第4水曜日に受講生9名で東京芸術劇場にて開催された。

先生はホワイトボードを使用して、グループスーパービジョンを進めた。受講生からは「現職場では事例発表する機会やスーパービジョンを受けることが少なく、GSV-Aを受講してスキルアップをした。自分の発表の結果アセスメント不足だとわかり現在はアセスメントに注意を払い業務をしている。心から受講して良かった」、「GSV-Aでは事例報告者が事例を発表した後は、他受講生より質問を行っていくスタイルを取られている。自身の質問内容を振り返ってみるとソーシャルワークの価値をどこに重きを置いて日々業務をしているか等改めて考えることが出来、かつ自身に不足している点を知ることができた研修であった。また、色々な経験を有している受講生の集合体のため、同じ目的・目標を持つ受講生たちで切磋琢磨が出来て、ソーシャルワーカーの仕事の楽しさ、魅力を再認識できた」などのコメントがあった。

【講師】 古屋龍太 (日本社会事業大学大学院)

### ②Bグループ

9名の受講生が参加し、毎月第4木曜日に家庭クラブ会館にて開催された。初回のオリエンテーションと各受講生の事例発表、講師からの文献を用いた講義を含め計10回開催した。受講生の経験年数は1～3年であった。受講生からは、「急性期・慢性期を問わず色々な機能の病院・施設で働いている方と交流ができたことがよかった。それぞれの視点・それぞれの考え方があり、新たな発見も多かった。」や「同じ経験年数の人たちと事例検討できた事で、同じ様な悩みを抱えていたり、新たな発見をすることが出来た。病院ごとに機

能や取り組み方が異なることを知り、自分の病院のよい所や改善すべき部分を見つけることができた」等のコメントがよせられた。

【講師】石井三智子（元、武蔵野大学 現、日本社会事業大学 非常勤講師）

### ③Cグループ

毎月第2月曜日に受講生9名が参加。新宿区の家家庭クラブ会館にて計10回が開催された。講師は「生活アセスメント用紙」を使用し、受講生の事例発表をスーパービジョンする形で参加者全員と議論しながら進められた。参加した受講生からは「成育歴などから患者さんの思考・行動について、紐解いていくことが今までになく、勉強になった。また、情報の「事実」を簡潔にまとめ検討する有効性を感じた」、「1人の患者さんの生活歴を書き出し、これほど深くアセスメントすることはなかった」などのコメントがあった。

【講師】朝比奈 朋子（東京成徳大学）

### ④Dグループ

毎月第3金曜日に受講生9名で家庭クラブ会館にて開催された。毎回、担当受講生より提出された事例について、受講生皆による対応方法の検討や振り返り、講師からの視点の投げかけや理論的助言を加える形で、支持的な関わりを中心としたグループスーパービジョンが展開された。受講生からは、「他の病院のSWと出会えたこと、様々な視点・考え方に刺激を受けることができ、お互いに受け止め合いながら議論が出来たことが大きな収穫物です」、「仲間の支持的なアドバイスや雰囲気の中で安心してケースを振り返り、素直に次に向けた反省も受け止めて考えることが出来て、経験年数に関わらず本当に役に立っています」、「悩んでいるのは自分だけではないのだと毎回講座の後にすっきりして帰ることが出来ました」などのコメントが聞かれた。

【講師】助川 征雄（聖学院大学）

## (3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

12名の受講生が参加し、毎月第3火曜日（9月は第3水曜日）、全8回、家庭クラブ会館にて開催された。日常のスーパービジョン活動の中での疑問点、困難点、できていることの妥当性の証明が行われた。講座終了後のアンケートでは、回答者全員が講座の内容について「とても良かった」と回答、「組織で働く人間としてどう考えるか、どうシステムをつくっていくか、という視点をもてるようになり、一年間とても支えられた」、「スーパービジョンとしての業務もソーシャルワーカーとしてのアセスメントも点検できる機会であった」、等の声が聞かれた。

【講師】福山 和女（ルーテル学院大学）

## (4) 外国人支援のためのソーシャルワーク【自主事業】

19名の受講生が参加し、土曜日の午後、月1回、4回連続の講義で、主に家庭クラブ会館にて開催された。

各回、現場に精通している講師から現状の課題や支援方法、MSWとして取り組むべき視点など多面的な内容で講義は行われた。受講生からは「制度に興味を持っての受講であったが、実際に取り組まれている内容を深く聞くことができ、実践に活かせると感じた」等の声が聞かれた。

- 第1回 外国人の生活課題とMSW（外国人の生活課題を深く理解する）
- 第2回 外国人と医療（MSWとしての支援や利用できる制度を学ぶ）
- 第3回 外国人に関する法制度（外国人に関する法制度や関連する機関等について学ぶ）
- 第4回 支援の実際（事例検討のほか、MICの立ち上げ、社会資源開発の経緯について知る）

**【講師】**

- 大川 昭博（特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク）
- 藤平 輝明（東京医科大学病院 総合相談・支援センター）
- 大貫 憲介（さつき法律事務所）
- 松野 勝民（横浜市菅田地域ケアプラザ）

**（5）中堅者研修【自主事業】**

月1回、5回連続の講義で土曜日の午後に開催された。受講生は12名で、グループワークを用いながら受講生自身の実践能力見直し作業や、後輩教育マニュアルの作成等を行った。受講生から、「経験年数が比較的近いメンバーで集まったので、ざっくばらんな意見交換ができ、日々の業務で苦慮することなどを共感し合いながら参加できた」、「後輩を育てるとき、自身がどこにポイントを置いていたのか、また、後輩と自身の今の関係性について、他のソーシャルワーカーの方々の事例と比較することで気づきを得られた」などのコメントが聞かれた。

**【講師】** 伊藤 正子（法政大学）

**3. プログラム検討委員会**

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関。全会員対象にアンケート調査と分析を行うとともに、中堅者向けの研修を企画・実施し今後の研修の内容を協議した。また、当協会で開催している研修について日本医療社会福祉協会にシラバスを提出し、認定医療社会福祉士のポイント承認を得る作業を行った。

- 【委員】** 伊藤 正子（法政大学）  
内田 美沙子（田無病院）  
大宮 謙一（荏原病院）  
小林 裕一郎（内藤病院）  
田上 明（東京都清瀬喜望園）  
原田 剛（新山手病院）  
藤井 かおる（京葉病院）  
馬見塚 統子（東大和市高齢者ほっと支援センターなんがい）

**【定款第3号事業】**

**医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】**

**1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕**

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。



#### (1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

参加者の要望に応え、平成28年度は2回開催した。第4回は10月8日(土)、「がん相談支援における医療ソーシャルワーカーの視点」をテーマに講義方式で行った。東京医科大学病院のソーシャルワーカー品田雄市さんより、がん対策やがん相談と医療ソーシャルワーカーの違い、必要な連携、緩和ケアにかかわることの意味などについてお話頂いた。第5回は平成29年2月18日(土)、「一人暮らしのがん患者へのソーシャルワーク支援～がんの診断時から亡くなられた後まで～」をテーマにワールドカフェ方式で話し合い、様々な価値観や知識を学び得る場となった。

#### (2) MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援

平成29年度の勉強会開催について企画した。

#### (3) 小児医療問題専門小委員会

東京都小児等在宅医療検討部会に合わせ、同委員と関心のあるMSWで運営している。計5回の委員会、平成29年3月3日(金)「もみじの家」の見学会を開催した。

#### (4) 医療事故調査制度

平成28年10月22日(土)、患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋主催の医療事故調査セミナーへ担当理事が参加した。平成29年度の研修(MSW対象)について企画立案を行った。

#### (5) 患者申出療養制度

活動計画を立てる準備段階として、制度の動向や臨床研究中核病院の届け出状況等の状況把握を行った。

### 【定款第4号事業】

#### 4) 刊行物の発行に関する事業

##### 1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行(各号1000部)

会員向けニュースレター「東京MSW」(337号(5月)、338号(8月)、339号(11月)、340号(2月))を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

##### 2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』65号の発行

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』65号(3月)を発行した。

##### 3. 出版部会の開催

年間計画、各刊行物発行のための企画・検討部会を、6月8日、8月10日、1月19日の3回開催した。